

(b) 【海鳥繁殖状況調査】



(b) 【海鳥繁殖状況調査】

1) 目的

ケンボッキ島の海岸部や斜面の広い範囲で繁殖するウミネコだが、2014年から2015年の2年間の調査により大幅に営巣地を移動させていることが判明した。その要因は頻繁に襲撃を繰り返すオジロワシの影響があると分かって来た。本年度も複数回上陸し、その影響により営巣の場所・面積がどう変化していくかを把握することに重点を置く。2015年度の草が伸びる前に行なったコシジロウミツバメの巣穴数調査において、ウトウと考えられる掘りかけの大きな穴が見つかったが、繁殖までの進展はなかった。浜中町ではまだウトウの繁殖記録はないところから、本年度はその穴群に着目し重点的に調査を行う。複数日に渡る調査に関しては、島内にテント設置を行い、実施する。

2) 調査方法

【ウミネコ】

ウミネコの繁殖状況については5月24日にGPSを用いて営巣地の外周を歩き面積を測定した。また7月2日に繁殖成功状況の確認を行った。

【ウトウと考えられた巣穴群及びコシジロウミツバメ】

2015年に確認されたウトウの可能性の有る巣については、5月24日に巣穴群の位置に自動撮影装置とICレコーダーを設置し、7月2日に回収し確認を行った。コシジロウミツバメにおいては本年度の調査は行っていない。

3) 結果及び考察

(1) ウミネコ

5月24日時点での調査では多くのウミネコが島上部の5か所(図1)に分かれ繁殖し抱卵を行っていた。しかし、7月2日の2回目の調査では5か所に分かれていた繁殖地も⑥に2巣2卵が残っていたのみであった(図2)。本年度もオジロワシの攪乱による影響が大であり、繁殖状況はほぼ全滅という極めて深刻な状況であった。

3年間のケンボッキ島におけるウミネコの営巣範囲は年により変化が見られた。2014年の調査では(図3)、初期には主に島の砂州及び斜面で営巣し一部が島の西部で営巣中であり、総面積は約39,000㎡で密度から約4,000巣と推定された。しかし、後期には島上部の西部のみに集団繁殖地を移動させていた。2015年の調査では(図4)ほぼ前年後期同様の島の西部のみであり面積は約35,000㎡であった。本年度の調査では島の前年度同様の西部と中央部に4か所の計5か所に営巣地があり総面積は56,000㎡であった。繁殖場所の変化は前年のオジロワシの攪乱から起こっていると考えられる。

○2016年のウミネコ繁殖エリア



(図1) 5月24日のウミネコ繁殖エリア



(図2) 7月2日のウミネコ巣卵ポイント



2016年5月24日 ウミネコの最も大きい営巣地があるケンボッキ島西部



ウミネコのペア



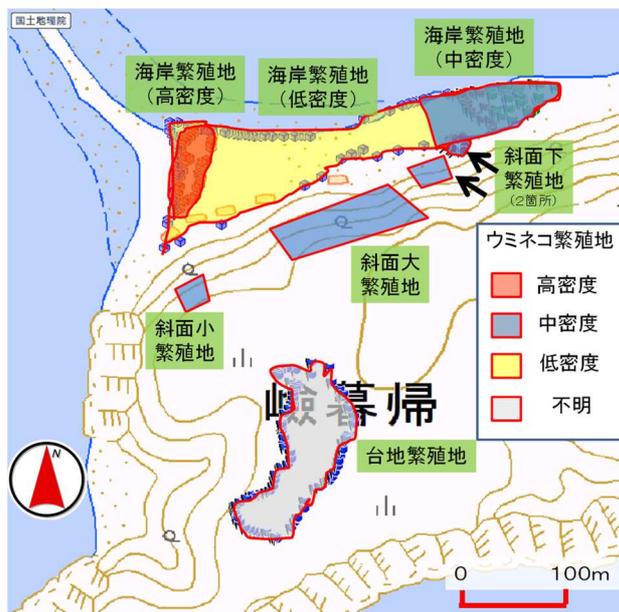
巣卵



集団繁殖地の外周を歩き範囲をGPSに記録する

○参考資料 2014年及び2015年ケンボッキ島のウミネコ繁殖エリア

(図3) 2014年



(図4) 2015年



(2) ウトウと考えられた巣穴群

2015年のケンボッキ島調査時に、島の東部二カ所の斜面においてウトウのものと思われる堀かけの巣穴が多数発見された。その確認のため付近にタイマー録音機と自動撮影カメラを設置した。しかし、ウトウと思われる巣穴に新しい痕跡は見られず、自動撮影装置には鳥の姿は全く撮影されなかった。そのため、これらの巣穴は今年初めて繁殖を始めた海鳥が掘ったもので、産卵まで至らなかったものであると考えられた。

2016年は再度確認するため同所において同様な調査を行った。5月24日の時点でウトウの可能性のある新たな巣穴は発見出来ず、昨年あった穴と考えられるものが少数だけあった。そのため昨年同様の位置に機材を設置した。7月2日に回収したが、自動撮影装置にコシジロウミツバメの姿が記録され、ICレコーダーにも同様にコシジロウミツバメの音声記録されていたのみであった。現地は深い草に覆われており、ウトウの繁殖地形成の様子は全くなかった。本年度は確認できなかったが、今後新たな繁殖地形成の可能性はあると考えられ、調査時には注視していく必要がある。



2015年のウトウの可能性のある巣穴群



2016年5月24日 同所に少数あった穴と記録機材



2016年5月24日 機材設置作業



自動撮影装置



I Cレコーダー



撮影されたコシジロウミツバメ



2016年7月2日 草で覆われていた現地

(3) コシジロウミツバメ

2016年は調査を行っておらず、2014年及び2015年の調査をまとめる。

ケンボッキ島全域にコシジロウミツバメコロニーが分布していることが示され、巣密度区分別のコシジロウミツバメコロニーの範囲は以下のものであった。面積をまとめると約24000平方mとなった。さらに巣密度区分より営巣数を概算すると、約33500巣と推察された。2014年調査結果では、コシジロウミツバメの巣穴利用率は約0.59となっているため、推定繁殖数は約19700つがいと考えるのが妥当であり、ケンボッキ島が大黒島に続く大きなコシジロウミツバメコロニーを有することが確認された。



巣密度区分 (平方mあたり)	総面積の概算 (平方m)	巣数の推定値
特大 (2.5±)	2167.5	5418.75
大 (0.5+)	12625.25	6312.625
中 (0.15±)	124879.5	18731.925
小 (0.05±)	59831.5	2991.575
特大 (0.01±)	4400	44
合計	203903.75	33498.875